

コード No. 18573

**Anti-Human  
N-Cadherin (224) Rabbit IgG Affinity Purify**

容量 : 100 µg

はじめに : カドヘリンは  $Ca^{2+}$  依存的に細胞同士を接着させる膜分子群として同定されました。これらの分子には細胞外領域にカドヘリンリピートと呼ばれる共通の反復構造を持つこと、カルシウムイオン非存在下では接着活性を示さないこと、ホモフィリックな結合能を示すこと、サブタイプ間で選択的な接着親和性を持つこと、といった共通する性質があります。これまでに 30 以上のカドヘリンスーパーファミリーに属する分子が同定されています。特にクラシック カドヘリンと呼ばれる分子群はカルシウムイオン依存性に機能する強力な細胞-細胞間接着分子群であり、結合特異性を異にする多種のサブクラスから成っています。これらの発現の on, off は発生の様々な段階において細胞の離散 集合に関与し、多様な組織の発生を制御していると考えられており、また、生体における組織構造の維持にも大きな役割を果たしていると考えられ、その機能異常が種々の疾病発生に関与していることが予想されています。現在までにヒトにおいては 14 種類のクラシック・カドヘリン・サブクラスが同定されており、N-Cadherin はその一つです。

免疫抗原 : N-Cadherin の部分合成ペプチド

精製方法 : 抗原ペプチドによる特異精製

包装形態 : 1 % BSA、0.05 %  $NaN_3$  含有 PBS 1.0 mL に溶解したものを凍結乾燥

再生方法 : 精製水 1.0 mL 添加(この時濃度は 100 µg/mL となります)

保存方法及び安定性 : 2 ~ 8 °C 保存 5 年間安定

安定性 : 溶解後 -20 °C 保存 2 年間安定

使用目的及び使用方法 : 免疫組織染色 5 µg/mL にて使用可能

(ホルマリン固定・パラフィン切片 マイクロウェーブ処理)

特異性 : Rat, Mouse と交差

参考文献 : 1. Shimoyama, Y., Hirohashi, S., Hirano, S., Noguchi, M., Shimosato, Y., Takeichi, M. and Abe, O. Cadherin cell-adhesion molecules in human epithelial tissues and carcinomas. *Cancer Res.*, 49: 2128-2133, 1989.  
2. Hirano, S., Kimoto, N., Shimoyama, Y., Hirohashi, S. and Takeichi, M. Identification of a neural  $\alpha$ -catenin as a key regulator of cadherin function and multicellular organization. *Cell*, 70: 293-301, 1992.  
3. Shimoyama, Y., Tsujimoto, G., Kitajima, M. and Natori, M. Identification of three novel human type-II classic cadherins and frequent heterophilic interactions between different subclasses of type-II classic cadherins. *Biochem. J.*, 349: 159-167, 2000.

コード No. 18573

**Anti-Human  
N-Cadherin (224) Rabbit IgG Affinity Purify**

容量 : 10 µg

**はじめに** : カドヘリンは  $Ca^{2+}$  依存的に細胞同士を接着させる膜分子群として同定されました。これらの分子には細胞外領域にカドヘリンリピートと呼ばれる共通の反復構造を持つこと、カルシウムイオン非存在下では接着活性を示さないこと、ホモフィリックな結合能を示すこと、サブタイプ間で選択的な接着親和性を持つこと、といった共通する性質があります。これまでに 30 以上のカドヘリンスーパーファミリーに属する分子が同定されています。特にクラシック カドヘリンと呼ばれる分子群はカルシウムイオン依存性に機能する強力な細胞-細胞間接着分子群であり、結合特異性を異にする多種のサブクラスから成っています。これらの発現の on, off は発生の様々な段階において細胞の離散 集合に関与し、多様な組織の発生を制御していると考えられており、また、生体における組織構造の維持にも大きな役割を果たしていると考えられ、その機能異常が種々の疾病発生に関与していることが予想されています。現在までにヒトにおいては 14 種類のクラシック・カドヘリン・サブクラスが同定されており、N-Cadherin はその一つです。

**免疫抗原** : N-Cadherin の部分合成ペプチド

**精製方法** : 抗原ペプチドによる特異精製

**包装形態** : 1 % BSA、0.05 %  $NaN_3$  含有 PBS 0.1 mL に溶解したものを凍結乾燥

**再生方法** : 精製水 0.1 mL 添加(この時濃度は 100 µg/mL となります)

**保存方法及び** : 2 ~ 8 °C 保存 5 年間安定

**安定性** : 溶解後 -20 °C 保存 2 年間安定

**使用目的及び** : 免疫組織染色 5 µg/mL にて使用可能

**使用方法** (ホルマリン固定・パラフィン切片 マイクロウェーブ処理)

**特異性** : Rat, Mouse と交差

**参考文献** : 1. Shimoyama, Y., Hirohashi, S., Hirano, S., Noguchi, M., Shimosato, Y., Takeichi, M. and Abe, O. Cadherin cell-adhesion molecules in human epithelial tissues and carcinomas. *Cancer Res.*, 49: 2128-2133, 1989.  
2. Hirano, S., Kimoto, N., Shimoyama, Y., Hirohashi, S. and Takeichi, M. Identification of a neural  $\alpha$ -catenin as a key regulator of cadherin function and multicellular organization. *Cell*, 70: 293-301, 1992.  
3. Shimoyama, Y., Tsujimoto, G., Kitajima, M. and Natori, M. Identification of three novel human type-II classic cadherins and frequent heterophilic interactions between different subclasses of type-II classic cadherins. *Biochem. J.*, 349: 159-167, 2000.